

早稲田ヨットクラブ

会報

第17号

昭和60年8月 発行
 発行者 事務局長 舟岡 正
 編集・広報 米田 晴二
 会費振込先 石田 晋也
 第一勧業銀行 日本橋支店
 普通預金 一四四五七二九
 口座番号
 ワセダヨットクラブ 杉山博保

堀江先輩に

春の叙勲 藍綬褒章



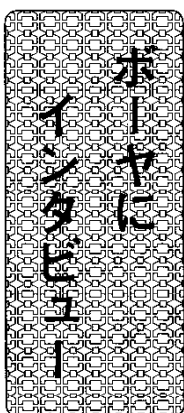
永年にわたるヨット界、日本スポーツ界への貢献に対して、過ぐる四月二十九日、堀江喜三氏（十六年OB）は藍綬褒章を受章されました。早稲田ヨットクラブとしては五十八年の小沢信三郎氏に次いで二人目のおめでたいことです。七月二日、永楽クラブで、堀江ご夫妻をお招きしてお祝のパーティを開きました。参加約七十五名。

——堀江さん、おめでとうございます。先づ、ご感想をおさかせ下さい。

やあやあ、ありがとうございます。今度のことは、永い間にわたってご交誼いただいた皆さん、先輩、同僚、後輩各位のご支援の賜物です。心から感謝しております。私自身について申しますと、健康で過せたおかげで、有難いことだと思っています。

——奥さんのご協力のことを、お忘れになっちゃあ、いけないんじゃないですか。ア、そうそう、毎日、にぎり飯を作っ

てくれなかつたら続きますんでしたからね、特に戦後の食糧難時代でもでしたからね、感謝しなきゃいけません。



——ヨット人生を振り返られて、ローマオリンピックに監督で行かれたり、いろいろなお話が、おありだったわけですが特に良かったなあと思われるのは、どん

なことですか。

ヨットを通じて一早稲田大学にとどまらず全国の、北海道から九州まで、広く友人が出来たことでした。どこに参りましても同じ話題で話せる友がいることは本当にうれしいことですよ。

——いろいろな方の顔が、浮んでくるでしょうね。

忘れ得ぬ人、心に深く残る人生の出会いの方といえ、新人時代を指導していただいた田原正信さん、宮川清さんたち先輩です。ヨットで私の今日あるのは、この方々との出会いによって導かれたと深く感謝しているのです。特に田原さんには若い私に舵を持たせて「俺の言う通りに走れ」といわれて教えてもらいました。技術の修得に一番良かったわけですよ。

——堀江さんは、坊やというニックネームで皆にかわいがられたということですね。

酒をのまされて、フラフラになって、新名先輩に私の家（当時鶴見）まで送っていただいたこともあり。本当に良い雰囲気クラブでした。

——部外の方では？

やはり強烈型の小沢吉太郎さん。大きな方向を、常に示していただいていたと思います。

——苦しかったことも、いろいろでしたしょう。

今になると、苦しかったことはすっかり忘れてしまつて、楽しかった若い日の思い出ばかりですよ。

——早稲田ヨット部というものを、一言でおっしゃると、どうなりますか。

昨年の五十周年記念事業にまつわる数々の事蹟こそ、部外の方々が評価されたことでしょう。お祝いの当日、高等海難審判庁の長官をしておられた林至氏が、いみじくもおっしゃっていましたが「五十年史を拝見して、伝統の強みと人脈の広さかしみじみ判る」ということでした。この言葉につぎるのではないでしょうか。

——若い後輩たちに、一言、おねがいします。

若い社会人、特に会社づとめの方の場合、仕事最優先で、将米の足場をしっかりと作っていただきたいと思ひます。ヨットとのかかわり方は、人それぞれのお立場でかわつてくるでしょうが、最低、OB会との連絡は、きちんとしていただきたいです。OB会から連絡があつた場合は、たとえ欠席でもよいですから返事だけは出して欲しい。やがて、時間なり余裕が出来たら顔を出したら良いのがOB会ですから、連絡があつたら、是非、回答だけは続けて欲しい」と思ひます。

——早稲田ヨットクラブを、ねばりと、寛容の精神で、終始、育てて来られた堀江先輩らしいアドバイスをいただき有難うございました。これからも、益々ご健康で、後輩たちを指導していただきます様おねがい致します。

実技講師に

横田豊氏 就任!!

大学の保健体育、実技の講師として、長い間ご苦労願っていた安藤一夫氏は、五十九年度で退任され、今度、横田豊氏が新たに就任された。同氏は二十二年OB、戦後のヨット部復興期の中心的存在であった。現在、山之内製業の要職にあ

所感と抱負

近年、早稲田大学に入学してくる学生諸君の体力は、客観的に評価して決して好ましい水準にあるとは言えないのである。受験勉強に多くの時間をさく為、体力の維持増進に必要な運動がおろそかになっていったのではないかと、

学生諸君の反省と意欲を背景に、本年度もヨットを希望する数は数百名に及んでいる。テニス、スキーに次ぐ高い順位である。受け入れ能力の関係上、五十名づつ二組、百名だけを対象に実施せざるを得ないのは残念であるが、大学が取り組んでいるキャンパスでの教育のささやかな一端を担ってゆきたいと思う。

この任務を遂行する基本的立場として先づ、吾々が育ち育てられてきた土壌である早稲田大学の考え方を理解し確認したい。即ち、大学のスポーツに対する考え方は、近代科学技術文明の中にあつて失われつつある人間そのものの将来を考え、スポーツによって人間形成の道を新しい学問的思考分野から切り開いてゆか

られる。実技に参加する学生たちに注ぐ同氏の情熱に期待したい。

60年度 実技ヨット 実施要領

期日：九月二日～八日 A班

九月八日～十四日 B班

場所：千葉県 岩井海岸(下穩居)

使用艇：稲竜、紺碧(レスキュー)

四七〇級、スナイプ級他

指導補助員：ヨット部学生 二二名

講師 横田 豊

うとするものである。体育局が分担すべき新しい時代への責任分野であるとして、新設される所沢キャンパスの構図の中にも種々具体的にその意図を盛り込まれていく。体育局の動きも発展的に変わってゆくであろう。

こうした動きの中で、海という大自然を背景に「潮気」なるものを再認識して学問的に解明してゆくことが出来る。「ヨット」は、今後の大学の方針達成の為、最も近い所に存在しているスポーツであると考える。

しかし実施過程では難問が多い。大きな方向は理解されている大学当局も、経済上の問題にぶつかると、ついつい消極的になり、大きく後退しがちなのである。ヨットに限ったことではないかも知れぬが、ついつい、ヨットは金喰い虫という観念が強いのが現実である。他部との表面的な比較から生ずるこの思い込みを拭い去つてもらう様努力せねばならない。ヨットは早稲田の教育目標である、心を

重視する人材を育成する上で、金にかえられない大切なスポーツの一つであることを実証していかなければならない。

当面、私は次の点を実行したい。第一に体育当局との相互信頼関係を、より固いものにする事である。実技カリキュラムの改善によって、予算編成の重点化と再編成をすることも含め、実技予算の論理的妥当性を明らかにしたい。私自ら事態と取り組んでみて結論を出したいと思う。そしてゆくゆくは、大学本部が分担すべき予算と、体育局が分担すべき予算という様なスケールまで、ヨットへの認識を拡大してゆく必要があると考えている。

小沢先輩をはじめ、諸先輩OB諸氏、現役諸君が努めてこられた、大学当局への啓蒙運動は、過日の五十年史・式典を節としてその結実を示したものであった。そして今、将来への展開に向つて新しい諸活動を、大学当局の理解の上に、一歩を進めねばならない。

次に、ヨット部を常に強い部にしていなければならぬ問題である。体育局は大学当局から、最近年度毎に全日本での成績が、各種目共大巾に減つてきている事象に對し、今後強力な浮上をはかるべしという課題をうけている。要するに早稲田のスポーツは、強くなければいけないのである。偏差値秀才の集りとか、スモール東大とか言われる早稲田の現状が、スポーツでの弱体化を招いている様である。ハーバード大学はその歴史と伝統の中に永遠の目標として、一つ、ノーベル賞の獲得、一つ、オリンピックの金メダルと言われている。かかる点に早々と気付き、新しい時代の早稲田大学開発にとり組み

れている当局の才智たるや尊敬に値するものである。吾々ヨットマンも不滅の王者たる道を先どりしなければならぬと思う。大学当局のヨットへの理解は実績をあげていることを実証することによって得られ、また、予算面での好循環も生れるであろうと思う。ヨット部員とOBの一体化こそ、今の諸問題をのり切る本質的課題であろう。

杉山、舟岡両氏を中心とする諸OBによる理事会の諸活動、奮闘振りには頭の下がる思いである。また、加藤総監督、風間監督を中心とするコーチ諸氏の活動、各ヨット界でのOB諸氏の公的活動など、当クラブの諸氏の動きは誠に多岐にわたっている。

講師としての期待は、それらの諸活動の情報が、すべて理事会に集約され、対策化され、早稲田ヨットクラブのより強いパワーを形成して、大学への良き影響力を有する様になって欲しい。大学とクラブの媒体的存在になり、ひいては強いヨット部の存立に寄与したいと思う。

さて、実技受講生に対する教育方針について述べたい。

一週間の合宿に参加する百名の学生(一部女子学生)に、参加して良かったという感銘を残したい。故、河野謙三氏の語録の中に次の様な言葉があった。

「メダカの学校みたいに、みんな仲良く遊んでいる」でそれが生徒か先生か判らぬは教育にならぬ。「雀の学校の先生はムチを振り振りチーパッパ」でなければならぬ。

そしてこれを機会に、より深くヨットを身につけたいという(次頁下段へ続く)

早稲田ヨット部のOBサーン!!

会費と寄附をお願いします

昨年は50周年記念パーティや、50年史出版で、大いに盛り上げました。今年は一寸、その反動で事務局は、難儀してあります。是非々々、皆さんのご協力をおねがい申し上げます。

七月十八までに、お振込いただいた方の明細は次の通りです。

◎60年度会費納入者 (7/18現在)

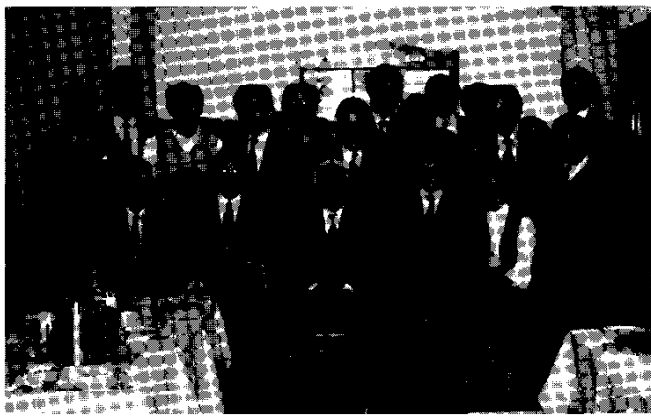
- ⑭増井 新名 山田 山田⑬植村 永元 出原⑯堀 山下 堀江⑰吉田⑲坪田
 - ⑳清水 横田⑳湯沢⑳漆原 秋山 小俣⑳河村 大津⑳石川 米田晴 金沢
 - 安藤⑳松本 岩本 浅山 千葉 遊佐
 - 是枝⑳佐藤 天神 舟岡⑳中田 山崎
 - 武村⑳清水 原田 加藤⑳北河 並木⑳
 - 大野 菅山⑳吉田 土肥 吉川⑳角田
 - 石田 神谷⑳木村 出 中島⑳大 齊藤
 - 松島 山中⑳小坂 頼 石井 森 滝
 - 齊藤 岡部 岡田⑳冬至⑳天矢木⑳坂
 - 爪⑳中島⑳大平 小池 以上七〇名
- 合計七十万円

◎ご寄附一覧 (含50年史代、○単位千円)

- ⑩増井⑩ 新名⑩⑮植松⑳ 永元⑳
 - 永田⑳⑯堀⑳⑳清水⑳⑳秋山⑩⑲米田晴
 - ⑳金沢⑩⑳岩本⑩⑳北河⑳ 並木⑩⑳
 - ⑳土肥⑩⑳角田⑩⑳木村⑩⑳⑳大⑩⑳ 齊藤⑩⑩
 - ④①頼⑩⑳⑳大平⑩⑳⑳小山⑩⑩ 梅原⑩⑩ 瀬川
 - ⑩⑩和田⑩⑩ 若月⑩⑩ 以上二十六名
- 合計三十三万円
- 振込先 第一勧業銀行 日本橋支店
普通預金口座 一四四五七三九
ワセダヨットクラブ 杉山博保

安藤さん「ご苦労さん

七年間にわたり、実技講師をご担当いただいた、安藤一夫氏の慰労と感謝の会を、有志20名相寄り、銀座ヨットクラブで楽しく開きました。記念の銀杯を贈呈。



~求ム!! 実技コーチ~

岩井での体育実技は 九月二日〜十四日。

若いワセダマンに ヨットを しこめ!!
自分に潮気も つけ直せ!!
横田コーチに 協力しよう。
連絡は 事務局 (丸岡) へ

全日本インカレ日程 (江ノ島)

8月23日(金)	個選
8月24日(土)	OBレース
8月25〜27日	インカレ

ヨット部 戦績

(六大学戦)

四七〇級	優勝
スナイプ級	五位
綜 合	三位

(関東インカレ)

四七〇級	三位
スナイプ級	十一位
綜 合	六位

(早慶戦)

残念乍ら 負け。詳報省略!!

右の如く、本年は、香しくない。OB 特に若手諸氏の指導協力をお願いしたい。

四大学OB戦日程

- 一、前夜祭 9月21日(土)18時〜21時 同志社大学唐崎艇庫に於て
- 二、開会式 9月22日(日)10時、第一レース11時、第二レース13時より
- 三、閉会式 15時30分より
- 四、参加料 宿泊費(朝食付)六〇〇〇円 家族、子供二〇〇〇円、又はホテルも紹介。朝食付一泊八〇〇〇円
- 五、使用艇 トッパー又はレーザー艇 スナイプ一艇
- 六、連絡先 ⑤〇年、恒川出己・エスピー 食品大阪支店06(226)一八三二

(前頁下段より続く) 青年を發掘したい。

歴史と伝統とは、そう簡単に消滅するものではない。体育局ヨット部のセーリングは、正統派としての権威を持っているのである。今、乱立する同好会、コマースヤリズムにのつたクラブ等々を否定するものではないが、四年間の学生生活をふりかえつて、これらに所属していた学生がその費した日数を思い、これだけ自分の時間を投入するのだつたら体育局ヨット部で学べばよかつたという反省の実例もある。正しく、厳しい教育を、本音では、私に期待されていると受けとめている。私は、愛すべき受講生諸君にマンツーマンで、わだかまりない鞭を振りたいと思つている。

早稲田ヨットクラブにおかれては、OBによる支援体制もとっていただける由である。「ヨットと人生」「ヨットと企業」等々、諸先輩による教育の時間もつける予定である。

補助員となるヨット部員諸君も、想像以上に素直な学生諸君ばかりである。私たちが彼らに与える影響力も、良かれ悪しかれ大きな波紋となるかも知れぬ。企業で言えば、業績数字等々と追われるに等しいレースに勝つことに専念し、尻を叩かれてきたシーズン末期、羽を休めることも大切。羽を休ませるとは実技の生活の中で冷静に、規律の中で自分を良く見つけて将来に備えることである。一日一日を大切にしっかりと過したいものだ。

最後にもう一度、OB諸氏の早稲田ヨットに対する心眼の説々の中から、是非、御支援御指導をいただきたい。岩井実技講習へのご参加を期待します。

村瀬さん

J 24世界選手権に出場決定

中部水域で活躍中の村瀬治美氏率いる J 24 (ロプスター) は、今秋伊勢湾で開かれる世界選手権への出場権を獲得されました。

理事会だより

4・18 ○現役の主将と主務に出席を求め 予算編成を指導した。

○レスキューホート・エンジンの オーバーホール必要。

5・16 ○ヨット部学生もアルバイトで頑張っている。奉賀帖計画承認。

○堀江先輩、監製褒賞お祝いの会の計画。関東中心で。

○早大、応援部45周年、6月1日。

○京大、ヨット部50周年6月23日。夫々、お祝いに出席する。

○稲門体育会、5月28日に多人数出席手配。

○ヨット部の戦力アップについて懇談。

6・20 ○会報発行の打合せ

○夏のスケジュール調整。

7・18 ○体育実技、支援対策。

○財政問題、検討。

○部で大原に借金残っている分は七月中に解決する様指導。

○ヨット部強化策、討議。

○部員数をふやすこと

主将・主務は毎回理事会に出席させること。

8月は、理事会、休み。
9月は 19日(木)です。18時 永楽 出来る丈多く、参加して下さい。

住 所 変 更 名簿を訂正して下さい。⑩は卒業年度

⑩高橋 彦 ▽663 西宮市甲子園浦風町10-3 ☎0798(41)6573	⑤①冬至克也 ▽810 福岡市中央区六本松3-11-33-307 ☎092(761)7206
②⑨米田晴二 ▽152 目黒区洗足2-12-6 ☎(712)9122	⑤②川瀬修平 ▽145 大田区東雪谷5-20-7 ☎(727)8849
③②川島 裕 ▽064 札幌市中央区北四条西4-1 札幌第1ワシントンホテル ☎011(251)3211	⑤③角田貴士 ▽670 姫路市吉田町38-5 マンション優雅 405 ☎0792(98)0301
③⑦小沢一裕 ▽810 福岡市中央区大名1-1-35-502 ☎092(713)4669	⑤④橋本一彦 ▽362 上尾市仲町1-272-602 リッセル上尾
③⑦児玉彬男 ロスアンゼルスへ転勤	⑤⑤貝出 健 ▽739-06 広島県大竹市御園1-2-C6-201
③⑧安藤順一 ▽157 世田谷区砧6-26-14 ☎(416)2435	⑤⑥石川 清 ▽981-31 宮城県泉市松森鹿島42-3 ☎02237(2)0451
③⑧近藤光徳 ▽175 板橋区高島平3-10-16-104 ☎(939)1869	⑤④小川寛樹 ▽321 宇都宮市今泉町39 キリンビール今 泉社宅B-401 ☎0286(25)4166
③⑨山崎富祥 ▽811-02 福岡市東区美和台2-10-7 ☎092(606)4453	⑤⑤市村彰治 ▽171 豊島区長崎4-1-10 ☎(957)8795
③⑨染谷真介 ▽277 柏市根戸419-13 ☎0471(33)6575	⑤⑥伊熊孝雄 ▽167 杉並区上荻1-18-14 キャスル荻窪 806 ☎(391)4185
④⑩木内博太郎 ▽215 川崎市麻生区白山5-1-8-904 ☎044(987)4034	⑤⑤喜多内悦郎 ▽456 名古屋市熱田区森後町3-22 ファミ ール森後2C ☎052(682)2412
④①小坂順孝 ニューヨークへ転勤	⑤⑥橋 滋夫 ▽162 新宿区早稲田鶴巻町535 翠彩ビル 403 ☎(204)0880
④②金刺高雄 ▽810 福岡市中央区今泉1-7-13 トーカン 今泉411 ☎092(713)4694	⑤⑦地曳克二 ▽251 藤沢市柄沢623 25 ☎0466(23)2707
④⑤大矢木一 ▽299-42 千葉県長生郡白子町鷺94 ☎0475(33)2610	⑤⑥河瀬健道 ▽100 (勤)千代田区丸の内3-1-1 出光石油開発(株)事業一部事業課
④⑥武藤 忠 ▽330 大宮市南中野455 14 ☎0486(83)8207	⑤⑥戸枝克也 ▽211 川崎市幸区小倉1-1-A-315 ☎044(511)7080
④⑥斑月寿明 シンガポールへ転勤	⑤⑦長瀬勇人 ▽162 新宿区市ヶ谷加賀町2-3-13市ヶ谷 アピタシオン604 ☎(267)1940
④⑥宮本博司 ▽199 立川市富士見町7-80-4	⑤⑦大平真弥 ▽210 川崎市川崎区日進町27-18朝 日サ ンライズ川崎203 ☎044(233)1010
④⑦町田吉生 ニューヨークへ転勤	⑤⑧渡辺輝雄 ▽503-02 岐阜県安人郡輪之内町大藪594
④⑦田村俊行 ▽165 中野区新井2-5-2	⑤⑨坂東義之 ▽377-15 群馬県吾妻郡嬬恋村711-1 国土計画(株) 明和寮
④⑦美浪 清 ▽115 北区赤羽台2-2R D-205	⑤⑨松本浩司 ▽235 横浜市磯子区森3-17-37 ☎045(761)3391
④⑦山田徹夫 ▽270-01 流山市野々下1025-3	⑤⑨小田昌一 ▽102 千代田区富士見町1-8-9 富士見ハ イツ3C ☎(261)8157
④⑦皆川リリ ▽161 新宿区下落合3-14-21-1106	⑤⑨鈴木美佐子 マドリッドへ転勤
④⑧杉井謙治 ▽178 練馬区高松1-25-16 内野工務店高 松寮 ☎(999)9520	
④⑨元塚正文 ▽248 鎌倉市極楽寺2-4-12 ☎0467(22)0685	
④⑨千田一郎 ▽157 世田谷区砧1-17-20 ☎(416)6962	